

シマフクロウの森保全活動 「2010 年度植樹知床地区」 2012 年評価報告書

2012 年 9 月 26 日
環境プランナー協議会
恒藤克彦

■ 評価の対象と目的

公益財団法人日本野鳥の会が実施した「シマフクロウの森を育てよう！ プロジェクト」による森づくりで 2010 年に植樹された知床 1 次地区。植樹後約 2.5 年になる。

- ①生物多様性保全からみた環境負荷の把握が実施されている
 - ②保全活動の記録管理（作業日誌等による）が実施されている
- ことによって、保全活動の管理の履歴が適切に記録されていることを評価する。

■最近 1 年間のおもな工事

- ・ 2012 年 4 月 23～24 日、防鹿柵補修応急工事
- ・ 2012 年 5 月 3～4 日、エゾヤチネズミによる樹皮食いの被害調査
- ・ 2012 年 6 月 11～21 日、防鹿柵補強工事
- ・ 2012 年 6 月 20～25 日、下刈工事

■ 実施した評価の概要

評価手続きの概要は以下のとおりである。

1. 報告書の閲覧
 - ・ 2012 年 5 月 3～4 日に実施された「エゾヤチネズミによる 2010 年区画の苗木の被害状況」
2. 環境負荷の把握のための作業日誌の閲覧
 - ・ 2012 年 4 月 23～24 日に実施された防鹿柵補修応急工事 作成：平成 24 年 5 月 1 日
 - ・ 2012 年 6 月 11～21 日に実施された防鹿柵補強工事 作成：平成 24 年 6 月 29 日
 - ・ 2012 年 6 月 20～25 日に実施された下刈工事 作成：平成 24 年 6 月 25 日
3. 現地検分前書類確認
 - ・ 2012 年 9 月 6 日、日本野鳥の会西五反田事務所にて報告資料内容の確認と 5 年間の管理終了後の管理計画について確認した。出席者は小林豊室長、田尻浩伸室長代理、保全プロジェクト推進室 竹前朝子氏。
4. 現地検分
 - ・ 2012 年 9 月 20 日実施。立会者は、日本野鳥の会 田尻浩伸室長代理、保全プロジェクト推進室 室野鳥保護区事業所 小畑拓也レンジャー、松本潤慶レンジャー。

■ 結論

結論は以下のとおりである。

1. 提供された情報の内容は、認定基準を満たしている。
2. 環境プランニング学会「森づくり・里山里林保全アセスメントの手引き」の基準により 95 点/100 点となり、「優良」と評価する。

■ 添付資料

- ・ 「2010 年度植樹知床地区」2012 年評価シート
- ・ シマフクロウの森「2010 年度植樹知床地区」2012 年現地検分報告書

以上

プロジェクト名 “The forest of the fish owl”プロジェクト

2010年度植樹 知床地区

作成者 恒藤克彦

作成日 2012年 9月 26日

承認者

評点合計	95 点/100点
------	-----------

1. 活動の概要				適合項目数	4	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 活動目的	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹によって森林生物が生息可能な森をつくる ・ 樹木を育成して、二酸化炭素を吸収する ・ 絶滅危惧種シマフクロウを救う 						
② 活動計画	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間の管理作業を計画している ・ 100年後をめざしたイメージが作成されている 						
③ 活動地域	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知床地方の山林、面積15haで、この周辺ではシマフクロウ1つがいの繁殖が確認されている ・ 国内でもっとも多くシマフクロウが生息する重要な地域である ・ 半島の先端側の約半分ほどが国立公園や世界自然遺産として保護されているが、それ以外はほとんど法的な保護がされていない ・ 野鳥の会では、今後この地域を対象に野鳥保護区設置を進める計画である 						
④ 実施主体者	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公益財団法人 日本野鳥の会 						
項目評価コメント			<ul style="list-style-type: none"> ・ シマフクロウの森を育てよう！プロジェクトの計画に従って実行されている。 						

2. 在来種、従来種、原種管理				適合項目数	3	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 樹種選定 種類、本数、産地、 種の実産地	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に繁殖するミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、イタヤカエデの4種類、2,000本を計画 ・ 今回の現地検分で、大きな問題もなく生育していることが確認できたので、樹種選定に問題がなかったと判断した 						
② 樹種の地域植生との 合致性（侵入性外来種、 GMO：遺伝子組換え体）	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010年の植樹において誤植したイタヤカエデ49本と枯死したイタヤカエデ99本の植樹が2010年11月に実施された ・ 苗木の育成地は美幌町稲美 ・ 仕入先は小寺種苗 						
③ 苗木仕入先情報	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網走地区森林組合 ・ 苗木の樹種の品質保証が確認ができた 						
項目評価コメント			<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010年度の植樹において、網走地区森林組合の苗木の「品質保証書」に記載漏れ等があったが、2012年度の植林において、同森林組合より苗木の「品質保証書」が適切に提出されているので、この地区の植樹の苗木も適切と判断して、評価項目①と③の評点を昨年より2ポイント高くして5とした。 						

3. 保全活動による環境負荷				適合項目数	2	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 苗木の搬入経路	否		・新しい植樹の実施はない						
② 苗木搬入におけるエネルギー使用量	否		・新しい植樹の実施はない						
③ 植え付け作業におけるエネルギー使用量	否		・新しい植樹の実施はない						
④ 付帯作業における資材使用量	適	5	・シカ柵補修応急工事が4月23～24日に実施された 補修工事は、延べ6人日、トラック1トン車、走行距離37.0km×2日と適切に記録されている ・シカ柵補強工事が6月11～21日に実施された 補強工事は、延べ41人日となる大きな規模であったが、使用機材、資材、工事前後の写真等、「環境負荷の把握」が適切に記録されている ・下刈り工事が、6月22、23日に実施された それぞれの工事について「環境負荷の把握」が適切に記録されている						
⑤ 付帯作業におけるエネルギー使用量	適	5	・シカ柵補修応急工事は、1.0トン車 37km、バックホー4時間稼働×2日 ・シカ柵補強工事は、ワゴン車37km×10日、4トントラック37km×1日、バックホー延べ45時間 ・6月の下刈り工事は、1トン車30km×2日と刈払機1台×延べ18時間						
項目評価コメント			・シカ柵補修応急工事と補強工事は、かなり大規模な工事となったが適切に記録されている。なお、このシカ柵工事は、2010年度地区、2011年度地区、2012年度地区全体への工事である。 ・6月の下刈り工事は、2010年度地区、2011年度地区全体への工事である。						

4. 付随的に発生する環境負荷の処置				適合項目数	2	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 廃棄物発生量	適	5	・下刈作業で発生したササ等は、刈払機によって細かく裁断されその場に放置するため、廃棄物の発生はない						
② 廃棄物処理	適	5	・廃棄物の発生はない						
③									
④									
項目評価コメント			・苗木シートの再利用等、廃棄物の発生は適切に管理されている。						

5. 森、里山里林の健全度				適合項目数	5	評点の平均値	3.8	評点	15 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 日が差し込む明るい森	適	5	・西側がなだらかに広く展開しており、天空は広く明るく開いている。						
② 植物の種類が多く、よく繁殖している	適	3	・冬期にエゾヤチネズミによる樹皮食いの被害にあったが、枯死にいたるまでの大きな影響はなかったようである ・ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモは枯死も少なく順調に生育している ・ミズナラの2株に葉が白くなるカビ(?)が発生していた。調査が必要である						

③	鳥の種類が多く、さえずりがよく聞こえる	否		・ 森が育成されて評価する。
④	落ち葉が堆積し、土壌がスポンジ状でふわふわしている	適	4	・ ヤナギやササなどの草が茂り始めて、表土の赤土が草で覆われ始めているなど、大きな改善がみられる このまま下草が豊になることを期待する
⑤	土壌に棲む生き物が多い	適	4	・ 同上に改善が進み始めている 腐葉土の形成が進むことを期待する
⑥	美しく、気分が休まる	否		・ 森が育成されて評価する。
⑦	一本一本の木が元気で、炭素の吸収が盛ん	適	3	・ 3年目の苗木はたくましく順調に成長している
⑧				
項目評価コメント		・ 赤土の表土がむきだしになった地表が多かったが、草が育って大きく改善が進み始めた。評価項目④と⑤はそれぞれ評点を昨年より1ポイント高くして4とした。		

総合評価コメント

- ・ 雪によるシカ柵の壊れ、エゾヤチネズミによる樹皮食いの被害と問題が発生したが、シカ柵の迅速な修理と補強、ヤチネズミへの恒久的な対策への取り組みと素早い活動が展開されており、管理レベルが一段と向上した。
- ・ これまで赤土の表土が目立っていたが、草に覆われるようになってきた。風が強条件に厳しいところもあるが、土壌がつくられ続くことを期待する。

シマフクロウの森「2010年度植樹知床地区」 2012年現地検分報告書

2012年9月25日 作成
環境プランナー協議会
恒藤克彦

検分実施日

2012年9月20日(木) 15:00~16:10 天候：晴れ

現地検分同行者

公益財団法人 日本野鳥の会 田尻浩伸氏、小畑拓也氏、松本潤慶氏

1) 植樹地の概況

2010年に植樹されたとき、「2010年現地査察報告」で「植樹地の上部は、表土が剥きだし状態で乾燥気味である。小さな苗が早く成長して、落ち葉が堆積する状況に早くなることを期待する。

(写真①)」と報告したが、今回の現地検分では、クマザサなどの下草が生育して地表を覆う状況になっていた(写真②) また、シカよけネットの入り口あたりは1m程度ヤナギなど、草も茂っており、地表面の乾燥や土壌の流出も防げるようになりつつあり、よい状況への転換が見られた(写真③)。

シカよけネットは、今年も昨年に引き続き、雪の重さで損壊していることが発見され、補修工事が実施された。補修工事は、支柱の間隔を狭くし、支柱とネットを固定する止め金具も大きくし、更に複数本を寄り合わせた太いワイヤーで補強をした(写真④⑤)。雪の量や地形によって雪の影響の現れ方も異なり、予防処置に難しさがある。しばらくは、事後対応で対処することもやむを得ないと判断する。

写真① 2010年植樹時の地表



写真② 2012年ヤチダモの下草状態



写真③ ヤナギなどの草が大きくなり、地表を覆うようになってきた



写真④ 補強された支柱と金具



写真⑤ 新しく設置した太いワイヤー



2) 植樹された樹木の状況

植樹後3回目の夏を過ぎた苗木はしっかりと大きく生育している（写真④）。

写真④ 大きく生育したヤチダモ



3) エゾヤチネズミによる樹皮食

冬期にエゾヤチネズミに茎をかじられる被害が発生した。4月16日の確認調査では、2011年度植樹、2010年度植樹地区の約640本/4,000本中(16%)に被害があった(写真⑤⑥)が、現地検分では、かじられた跡もかなり回復しており、樹皮食による枯死はあまり発生していないように見受けられた。

写真⑤



写真⑥



4) 病気の発生

ミズナラに白いカビ(?)が発生している(写真⑥)。調査が必要である。

写真⑥ 葉が白くなっているミズナラ



シマフクロウの森保全活動 「2011 年度植樹知床地区」 2012 年評価報告書

2012 年 9 月 26 日
環境プランナー協議会
恒藤克彦

■ 評価の対象と目的

公益財団法人日本野鳥の会が実施した「シマフクロウの森を育てよう！ プロジェクト」による森づくりで 2011 年に植樹された知床 2 次地区。植樹後約 1.5 年になる。

- ①生物多様性保全からみた環境負荷の把握が実施されている
 - ②保全活動の記録管理（作業日誌等による）が実施されている
- ことによって、保全活動の管理の履歴が適切に記録されていることを評価する。

■最近 1 年間のおもな工事

- ・ 2012 年 4 月 23～24 日、防鹿柵補修応急工事
- ・ 2012 年 5 月 3～4 日、エゾヤチネズミによる樹皮食いの被害調査
- ・ 2012 年 6 月 11～21 日、防鹿柵補強工事
- ・ 2012 年 6 月 20～25 日、下刈工事

■ 実施した評価の概要

評価手続きの概要は以下のとおりである。

1. 報告書の閲覧
 - ・ 2012 年 5 月 3～4 日に実施された「エゾヤチネズミによる 2010 年区画の苗木の被害状況」
2. 環境負荷の把握のための作業日誌の閲覧
 - ・ 2012 年 4 月 23～24 日に実施された防鹿柵補修応急工事 作成：平成 24 年 5 月 1 日
 - ・ 2012 年 6 月 11～21 日に実施された防鹿柵補強工事 作成：平成 24 年 6 月 29 日
 - ・ 2012 年 6 月 20～25 日に実施された下刈工事 作成：平成 24 年 6 月 25 日
3. 現地検分前書類確認
 - ・ 2012 年 9 月 6 日、日本野鳥の会西五反田事務所にて報告資料内容の確認と 5 年間の管理終了後の管理計画について確認した。出席者は小林豊室長、田尻浩伸室長代理、保全プロジェクト推進室 竹前朝子氏。
4. 現地検分
 - ・ 2012 年 9 月 20 日実施。立会者は、日本野鳥の会 田尻浩伸室長代理、保全プロジェクト推進室 室野鳥保護区事業所 小畑拓也レンジャー、松本潤慶レンジャー。

■ 結論

結論は以下のとおりである。

1. 提供された情報の内容は、認定基準を満たしている。
2. 環境プランニング学会「森づくり・里山里林保全アセスメントの手引き」の基準により 93 点/100 点となり、「優良」と評価する。

■ 添付資料

- ・ 「2011 年度植樹知床地区」2012 年評価シート
- ・ シマフクロウの森「2011 年度植樹知床地区」2012 年現地検分報告書

以上

プロジェクト名 “The forest of the fish owl”プロジェクト

2011年度植樹 知床地区

作成者 恒藤克彦

作成日 2012年 9月 26日

承認者

評点合計	93 点/100点
------	-----------

1. 活動の概要				適合項目数 4	評点の平均値 5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容				
① 活動目的	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹によって森林生物が生息可能な森をつくる ・ 樹木を育成して、二酸化炭素を吸収する ・ 絶滅危惧種シマフクロウを救う 				
② 活動計画	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間の管理作業を計画している ・ 100年後をめざしたイメージが作成されている 				
③ 活動地域	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知床地方の山林、面積15haで、この周辺ではシマフクロウ1つがいの繁殖が確認されている ・ 国内でもっとも多くのシマフクロウが生息する重要な地域である ・ 半島の先端側の約半分ほどが国立公園や世界自然遺産として保護されているが、それ以外はほとんど法的な保護がされていない ・ 野鳥の会では、今後この地域を対象に野鳥保護区設置を進める計画である 				
④ 実施主体者	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公益財団法人 日本野鳥の会 				
項目評価コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 知床地区の第2次植樹地区で、プロジェクトは順調に進んでいる。 					

2. 在来種、従来種、原種管理				適合項目数 3	評点の平均値 4.3	評点	17 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容				
① 樹種選定 種類、本数、産地、 種の原産地	適	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次植樹地区と同様のミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、イタヤカエデの4種類にカツラを加えた5種類を各400本で合計2,000本を計画 ・ 1次地区にないカツラは、北海道立林業試験場の資料によると、雪害に少し弱く、近隣の知床半島の根室海峡に面した南東の地域から根室の北地域に掛けては植樹に対して「要注意地区」となっているが、知床半島では太古の時代から自生しているなじみの深い樹種として選定 ・ カツラは今のところ他種よりも枯死が少し多いようであるが、大きな問題ではない。今後を見守る必要がある。 				
② 樹種の地域植生との 合致性（侵入性外来種、 GMO：遺伝子組換体）	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗木の育成地は美幌町 ・ 仕入先は小寺種苗 				
③ 苗木仕入先情報	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網走地区森林組合 ・ 苗木の樹種の品質保証が確認ができた 				

項目評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年度の植樹において、網走地区森林組合の苗木の「品質保証書」に記載漏れ等があったが、2012年度の植林において、同森林組合より苗木の「品質保証書」が適切に提出されているので、この地区の植樹の苗木も適切と判断して、評価項目③の評点を昨年より2ポイント高くして5とした。 								
3. 保全活動による環境負荷				適合項目数	2	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 苗木の搬入経路	否		・新しい植樹の実施はない						
② 苗木搬入におけるエネルギー使用量	否		・新しい植樹の実施はない						
③ 植え付け作業におけるエネルギー使用量	否		・新しい植樹の実施はない						
④ 付帯作業における資材使用量	適	5	<2010年度植樹地区と同時に工事を実施> ・シカ柵補修応急工事が4月23～24日に実施された 補修工事は、延べ6人日、トラック1トン車、走行距離37.0km×2日と適切に記録されている ・シカ柵補強工事が6月11～21日に実施された 補強工事は、延べ41人日となる大きな規模であったが、使用機材、資材、工事前後の写真等、「環境負荷の把握」が適切に記録されている ・下刈り工事が、6月22、23日に実施された それぞれの工事について「環境負荷の把握」が適切に記録されている						
⑤ 付帯作業におけるエネルギー使用量	適	5	<2010年度植樹地区と同時に工事を実施> ・シカ柵補修応急工事は、1.0トン車 37km、バックホー4時間稼働×2日 ・シカ柵補強工事は、ワゴン車37km×10日、4トントラック37km×1日、バックホー延べ45時間 ・6月の下刈り工事は、1トン車30km×2日と刈払機1台×延べ18時間						
項目評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・シカ柵補修応急工事と補強工事は、かなり大規模な工事となったか適切に記録されている。なお、このシカ柵工事は、2010年度地区、2011年度地区、2012年度地区全体への工事である。 ・6月の下刈り工事は、2010年度地区、2011年度地区全体への工事である。 								

4. 付随的に発生する環境負荷の処置				適合項目数	2	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 廃棄物発生量	適	5	・下刈り作業で発生したササ等は、刈払機によって細かく裁断されその場に放置するため、廃棄物の発生はない						
② 廃棄物処理	適	5	・廃棄物の発生はない						
③									
④									
項目評価コメント	・廃棄物の発生はなく、適切な処置がされている。								
5. 森、里山里林の健全度				適合項目数	5	評点の平均値	3.8	評点	15 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						

①	日が差し込む明るい森	適	5	・西側がなだらかに広く展開しており、天空は広く明るく開いている
②	植物の種類が多く、よく繁殖している	適	3	・再植樹された苗木を含めて、健全に成育している ・カツラも順調に成育しているが、今後の生育を見守る必要がある
③	鳥の種類が多く、さえずりがよく聞こえる	否		・森が育成されて評価する
④	落ち葉が堆積し、土壌がスポンジ状でふわふわしている	適	4	・ササなどの下草が茂り始めて、表土の赤土が草で覆われ始めているなど、大きな改善がみられる
⑤	土壌に棲む生き物が多い	適	4	・下刈りされたササなどにより表土の保全がよくなってきた
⑥	美しく、気分が休まる	否		・森が育成されて評価する
⑦	一本一本の木が元気で、炭素の吸収が盛ん	適	3	・苗木の活着もよく、順調に成長している ・これからの楽しみである
⑧				
項目評価コメント		・赤土の表土がむきだしになった地表が多かったが、草が育って大きく改善が進み始めた。評価項目④と⑤はそれぞれ評点を昨年より1ポイント高くして4とした。		

総合評価コメント

- ・2010年度植樹の1次地区と同様にシカ柵対策、エゾヤチネズミの被害対策、下刈り工事が行われており、適切な管理が実施されている。
- ・下草もかなり多くなってきたので、これからの森づくりに適した地域になっていくように感じることができる。

シマフクロウの森「2011 年度植樹知床地区」 2012 年現地検分報告書

2012 年 9 月 25 日 作成

環境プランナー協議会

恒藤克彦

検分実施日

2012 年 9 月 20 日(木) 15:00~16:10 天候：晴れ

現地検分同行者

公益財団法人 日本野鳥の会 田尻浩伸氏、小畑拓也氏、松本潤慶氏

1) 植樹地の概況

6 月に下草刈りが行われており、地表はササの葉で覆われている。なだらかな傾斜地で、大きな問題もなく苗木は育っている（写真①②）。

写真①



写真②



2) 植樹された樹木の状況

冬期にエゾヤチネズミに茎をかじられる被害が発生した。4月16日の確認調査では、2011年度植樹、2010年度植樹地区の約640本/4,000本中(16%)に被害があった(写真③)が、現地検分では、かじられた跡もかなり回復しており、樹皮食いによる枯死はあまり発生していないように見受けられた。

写真③ エゾヤチネズミにかじられたカツラの茎



ケヤマハンノキは、順調に成育している(写真④)が、カツラ(写真⑤)は少し枯死が目立つ。しかし、全体として生育に大きな問題は発生していない。下草のササの生育はよい。膝下ぐらいの高さになると下刈りを入れる。年2回実施している。

写真③ ケヤマハンノキ



写真④ カツラ



シマフクロウの森保全活動 「2012 年度植樹知床地区」 2012 年評価報告書

2012 年 9 月 26 日
環境プランナー協議会
恒藤克彦

■ 評価の対象と目的

公益財団法人日本野鳥の会が実施した「シマフクロウの森を育てよう！ プロジェクト」による森づくりで 2012 年に植樹された知床 3 次（最終）地区。植樹後約 0.5 年になる。

- ①生物多様性保全からみた環境負荷の把握が実施されている
 - ②保全活動の記録管理（作業日誌等による）が実施されている
- ことによって、保全活動の管理の履歴が適切に記録されていることを評価する。

■最近 1 年間のおもな工事

- ・ 2012 年 5 月 25～31 日、地ごしらえ
- ・ 2012 年 6 月 2 日、苗木の搬入
- ・ 2012 年 6 月 3～6 日、植え付け
- ・ 2012 年 8 月 31 日、活着率調査

■ 実施した評価の概要

評価手続きの概要は以下のとおりである。

1. 報告書の閲覧
 - ・ 苗木の「品質保証書」
 - ・ 「シマフクロウの森を育てよう！ プロジェクト」現地検分補足資料
作成日：2012.08.06 日本野鳥の会 野鳥保護区事業所
2. 環境負荷の把握のための作業日誌の閲覧
 - ・ 2012 年 5 月 24～6 月 8 日に実施された植栽工事 作成：平成 24 年 6 月 25 日
3. 現地検分前書類確認
 - ・ 2012 年 9 月 6 日、日本野鳥の会西五反田事務所にて報告資料内容の確認と 5 年間の管理終了後の管理計画について確認した。出席者は小林豊室長、田尻浩伸室長代理、保全プロジェクト推進室 竹前朝子氏。
4. 現地検分
 - ・ 2012 年 9 月 20 日実施。立会者は、日本野鳥の会 田尻浩伸室長代理、保全プロジェクト推進室 室野鳥保護区事業所 小畑拓也レンジャー、松本潤慶レンジャー。

■ 結論

結論は以下のとおりである。

1. 提供された情報の内容は、認定基準を満たしている。
2. 環境プランニング学会「森づくり・里山里林保全アセスメントの手引き」の基準により 95 点/100 点となり、「優良」と評価する。

■ 添付資料

- ・ 「2012 年度植樹知床地区」2012 年評価シート
- ・ シマフクロウの森「2012 年度植樹知床地区」2012 年現地検分報告書

以上

プロジェクト名 “The forest of the fish owl”プロジェクト

2012年度植樹 知床地区

作成者 恒藤克彦

作成日 2012年 9月 26日

承認者

評点合計	95 点/100点
------	-----------

1. 活動の概要	適合項目数 4 評点の平均値 5.0	評点	20 点/20点
----------	--------------------	----	----------

評価項目	適否	評点	観察事項の内容
① 活動目的	適	5	・ 植樹によって森林生物が生息可能な森をつくる ・ 樹木を育成して、二酸化炭素を吸収する ・ 絶滅危惧種シマフクロウを救う
② 活動計画	適	5	・ 5年間の管理作業を計画している ・ 100年後をめざしたイメージが作成されている
③ 活動地域	適	5	・ 知床地方の山林、面積15haで、この周辺ではシマフクロウ1つがいの繁殖が確認されている ・ 国内でもっとも多くシマフクロウが生息する重要な地域である ・ 半島の先端側の約半分ほどが国立公園や世界自然遺産として保護されているが、それ以外はほとんど法的な保護がされていない ・ 野鳥の会では、今後この地域を対象に野鳥保護区設置を進める計画である
④ 実施主体者	適	5	・ 公益財団法人 日本野鳥の会
項目評価コメント	・ 知床地区の第3次植樹地区で、今回のプロジェクトはこの地区の植樹ですべて終了する。		

2. 在来種、従来種、原種管理	適合項目数 3 評点の平均値 5.0	評点	20 点/20点
-----------------	--------------------	----	----------

評価項目	適否	評点	観察事項の内容
① 樹種選定種類、本数、産地、種の原産地	適	5	・ ミズナラ（3年生）、ハルニレ（4年生）、カツラ（3年生）、イタヤカエデ（3年生）の4種類を各500本で合計2,000本を計画
② 樹種の地域植生との合致性（侵入性外来種、GMO：遺伝子組換体）	適	5	・ 苗木の育成地は美幌町 ・ 仕入先は小寺種苗
③ 苗木仕入先情報	適	5	・ 網走地区森林組合 ・ 苗木の「品質保証書」が添付されている ・ 活着率が80%を下回った場合や植樹本数の不足、樹種の間違いが確認された場合は、補植作業が保証されている
項目評価コメント	・ 苗木に対する「品質保証書」が適切に発行されるようになった。		

3. 保全活動による環境負荷	適合項目数 3 評点の平均値 5.0	評点	20 点/20点
----------------	--------------------	----	----------

評価項目	適否	評点	観察事項の内容
① 苗木の搬入経路	適	5	・ 育成地の美幌町～現地
② 苗木搬入におけるエネルギー使用量	適	5	・ 6月2日、苗木の搬入に普通1トン車、美幌町～現地60.0km（片道）と適切に記録されている
③ 植え付け作業におけるエネルギー使用量	適	5	・ 5月25日から5日間、地ごしらえが実施されている 使用機材、走行距離等、適切に記録されている ・ 6月3日から4日間、植え付けが実施されている 作業人数、使用機材、走行距離、廃棄物の発生等、適切に記録されている
④ 付帯作業における資材使用量	否		・ 最後の3次地区のためシカ柵等の付帯作業は発生していないので、評価は否とする
⑤ 付帯作業におけるエネルギー使用量	否		・ 最後の3次地区のためシカ柵等の付帯作業は発生していないので、評価は否とする
項目評価コメント	・ 3次の植え付けで作業も定型化し、環境負荷の把握等も適切に実施されている。		

4. 付随的に発生する環境負荷の処置			適合項目数	2	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容					
① 廃棄物発生量	適	5	・ 苗運搬用の苗木シート10枚は、森林組合で再利用					
② 廃棄物処理	適	5	・ 地ごしらえ、植樹、その他の作業においても廃棄物の発生はない					
③								
④								
項目評価コメント	・ 廃棄物の発生はなく、適切な処置がされている。							

5. 森、里山里林の健全度			適合項目数	5	評点の平均値	3.8	評点	15 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容					
① 日が差し込む明るい森	適	5	・ 知床の3区画の中ではもっと平坦で、天空は広く明るく開いている					
② 植物の種類が多く、よく繁殖している	適	3	・ この地区は、下草も多く生えており、1次地区のように赤土が露出している所はなく、植物の生育環境はよいと思われる					
③ 鳥の種類が多く、さえずりがよく聞こえる	否		・ 森が育成されて評価する					
④ 落ち葉が堆積し、土壌がスポンジ状でふわふわしている	適	4	・ 土壌の形成はあまり進んでいないが、植樹に際して地ごしらえが十分に実施されている					

⑤	土壌に棲む生き物が多い	適	4	・腐葉土の形成が少ないが、南と西に森があって風の影響を受けにくい地形である
⑥	美しく、気分が休まる	否		・森が育成されて評価する。
⑦	一本一本の木が元気で、炭素の吸収が盛ん	適	3	・8月31日に実施された活着率調査では、1948/2003で97.4%の活着率となっている
⑧				
項目評価コメント		・活着率がこれまでの中で最も高くなっている。今後の生育が楽しみである。		

総合評価コメント

・知床地区最後の植樹である。「シマフクロウの森をそだてよう！プロジェクト」の植樹はすべて計画通りに実施された。根室から始まって、4回目の植樹であり、苗木の品質保証、工事の環境負荷把握作業も手慣れてきたようで、正確な記述ができている。

・知床地区は、雪やエゾヤチネズミの被害などが発生しているが、迅速で適切な管理活動が実施されており、今後の森づくりが期待される。

シマフクロウの森「2012 年度植樹知床地区」 2012 年現地検分報告書

2012 年 9 月 25 日 作成
環境プランナー協議会
恒藤克彦

検分実施日

2012 年 9 月 20 日(木) 15:00~16:10 天候：晴れ

現地検分同行者

公益財団法人 日本野鳥の会 田尻浩伸氏、小畑拓也氏、松本潤慶氏

1) 植樹地の概況

今回の植樹場所は、2010 年度、2011 年度に植樹した地区の南西に一段下がった地区である。南側と西側は、樹高の高い森になっているので、風の影響を受けにくく良知と思われる。地面はササに覆われており、下草刈り後に植樹された。

2010 年度、2011 年度に植樹した地区で、エゾヤチネズミによる樹皮食いの被害が発生した。このエゾヤチネズミの個体数を抑制するために、エゾフクロウによる捕食を狙いとして、エゾフクロウを呼び寄せるための巣箱が設置されている（写真①）。

写真① エゾフクロウの巣を設置した 2012 年度植樹地区



2) 植樹された樹木の状況

ハルニレ（4年生）、カツラ（3年生）、ミズナラ（3年生）、イタヤカエデ（3年生）がそれぞれ500本、全体で2,000本が植樹された。今回で、この知床地区の植林は計画がすべて完了したことになる。

今回植樹された苗は生育がよく、かなり大きめである。8月31日に実施された活着の状況調査では、ハルニレ 99.2%、カツラ 98.6%、ミズナラ 99.8%、イタヤカエデ 94.8%と活着率は大変よい。枯死が少なく推移しており、現地検分においても良好であることを確認した。

写真② ハルニレ



写真③ カツラ



写真④ ミズナラ



写真⑤ イタヤカエデ



3) 千人の森キャンペーン

昨年に続いて実施された「千人の森」キャンペーンで100本の植樹が行われた。設置された看板には、Tシャツと同じ茶色で「2012」と記載されている。

写真⑥「千人の森キャンペーン区画 2012年」



写真⑦ 現地検分作業

